

News & Scope Handai Hospital

阪大病院ニュース

第29号

発行/大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課)
http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp

禁転載

(この紙面は再生紙を使っています)

住所/〒565-0871大阪府吹田市山田丘2-15 TEL/06-6879-5021

小児医療センター2月開設

子どもの病気を総合的に診療

小児科、小児外科をはじめ子どもの病気に関連する診療科だけでなく、他科との連携を密にして子どもの病気を総合的に診る小児医療センターが阪大病院に2月1日、オープンします。専門性の高い小児医療に關して先進的な医療を提供するとともに、患者さまの安全、QOL(生活の質)の確保にも力を入れます。さらに、社会的な問題となっている小児救急についても受け入れ態勢を充実させ、地域医療に貢献していきます。

小児がんなどの先進的治療法開発

子どもの病気がかぜや下痢といった大人と同じ症状の病気から、さまざまな先天性疾患や遺伝性疾患、小児がんなど子ども特有の病気もあります。小児診療の守備範囲は内科、外科にかかわらず非常に広いのが特徴です。また、子どもは発達・発育途上であるという点が重要な要素

になり、すでに成長が止まった大人とは、病気に對する診断や治療、看護においても違う面があります。また、先天性の病気や子どものときに発症した病気が成人まで持続(キャリアオーバー)するものがあ、大人になっても継続して小児科で診ていかなければならない病気もあります。センターはこのような専門性の高い小児医療を充実させるために



小児病棟にできたプレイルーム

設立されました。これまでは、小児科と日本の草分け的な存在の小児外科が中心となり、整形外科、心臓血管外科、産科、総合周産期母子医療センターの協力を得て、診療を行ってきました。これからは、これらの診療科とはさらに有機的な連携を強化し、看護部をはじめ、他の診療科のスタッフも小児医療に協力しやすい体制を確立していきます。診療については、小児白血病や脳腫瘍、骨肉腫など小児がんに関して、先進的な治療法の開発に力を入れていきます。先天性代謝異常についても、酵素療法をはじめ、骨髄移植、遺伝子治療など先端の治療法を導入しています。また、移植医療も積極的に進めていきます。胆道閉鎖症に対する生体肝移植をはじめ、小腸、肺、できれば心臓移植も視野に入れています。子どもの病気は一つの病気の人数が少なく、診断法や治療法が

確立していない病気がたくさんあります。センターでは、これらの難治性の病気や患者数の少ない病気についての研究にも、医学部の基礎部門と連携して取り組んでいきます。診療面だけでなく、センター1発足を機に、小児病棟も各科が協力して診療が行いやすく、患者さまはもちろん、家族も快適に療養ができるように整備をします。

産科との連携強化 セキュリティも確保

新生児回復治療室(GCU)を増床して、産科との連携を強めました。また、プライバシーに配慮して個室を増やし、これまで、小児科病棟は付き添いが原則だったのですが、家族の負担を考慮して付き添いがいらぬ病室も設置しました。

入院している子どももセキユリティも確保しました。だれでも簡単に出入りできた病棟にオートロックシステムを導入し、患者さまはもちろん、家族、見舞いの方の出入りを確実にチェックできるようにしました。入院している子どもたちに対するアメニティも充実させていきます。

円形脱毛症あきらめないで 高い治療実績 年400人が受診

うな病棟にしていく予定です。小児救急について、これまで高度救命救急センターによる最重症を受け入れる3次救急でしたが、これからは重症の子どもも受け入れる2次救急にも対応できるようにになり、北摂地域の小児救急医療に貢献していきます。センターでは教育面

にも力を入れていきます。小児科医不足は社会的問題にもなっています。センターでは医学生だけでなく、若手の医師が研修することによって、小児医療の重要性に気づき、小児科医を目指してほしいと思います。そのためセンターでの勉強会や講演会を開くなど、教育システムも開発していく予定です。

は男性ホルモンの影響を受けたいために、脱毛することなく、毛髪が育つのです。問題は円形脱毛症です。板見教授によると、円形脱毛症はストレスによって起こるのではなく、自己免疫疾患でなく、自己免疫疾患であることが医学的に明らかになってきました。特に悩みが大きい病気を起す前に、受診をすべきなのに、受診せずに、民間療法で治

円形脱毛症の局所免疫療法

脱毛症で頻度が高いのは男性型脱毛症と円形脱毛症です。男性型脱毛症は遺伝と男性ホルモンの影響で起こり、頭髪が軟毛になる状態であつて、基本的には病気ではありません。これまでは、後頭部の毛包

円形脱毛症の局所免疫療法



有効な治療法がありませんでしたが、内服薬のプロペシアが使えるようになり、一定の効果が得られるようになりました。また、市販のミノキシジルを含んだ育毛剤もある程度効果が見られます。外来ではプロペシアの処方を行っており、自毛植毛は専門施設を紹介しています。後頭部の髪の毛の根元の毛包という部分を脱毛している頭皮に移植するのです。後頭部の毛包



未来の医師を目指す子どもたちと保護者を対象にした阪大病院主催の初めての「親子病院見学ツアー」が昨年11月3日に行われました。8組計16人が参加。医療現場の実際を体験し、医師になる気持ち

未来の医師を目指す子どもたちと保護者を対象にした阪大病院主催の初めての「親子病院見学ツアー」が昨年11月3日に行われました。8組計16人が参加。医療現場の実際を体験し、医師になる気持ち

親子病院見学ツアーを開催

未来の医師を目指す子どもたちと保護者を対象にした阪大病院主催の初めての「親子病院見学ツアー」が昨年11月3日に行われました。8組計16人が参加。医療現場の実際を体験し、医師になる気持ち

日本の肝炎治療をリード

消化器内科

阪大病院の消化器内科は食道から大腸までの消化管と肝臓、胆のう、すい臓の病気を診ています。特に慢性肝炎の治療に関しては日本一の症例数を誇り、新たな治療法の開発にも取り組んでいます。がんについても、患者さまの体に負担の少ない内視鏡手術を主体に、先進的な治療も行



ラジオ波でがん病巣を焼き切る手術

社会的問題にもなっているC型肝炎の治療は新薬の開発や新しい薬の組み合わせによって日進月歩です。阪大病院消化器内科は30の関連病院と連携して、同じ治療法によって3000例を超える症例を手がけています。また、患者さまの了解のもとに、新しい治療法の効果を確認したり、新薬の治験をした

肝臓がん患者さまの8割の原因がC型肝炎とされています。脂肪肝から肝硬変、肝臓がんという経過をたどる患者さまもおられます。がんの病巣が小さく、数も少ないときには、ラジオ波でがん病巣を焼き切ってしまう治療法が主流になっています。がん病巣にラジオ波を発する針を差し込むだけで、病棟で簡単にできる手術で、患者さまの体への負担も少ない治療法です。年間に約100例行っています。進行した肝臓がんは消化器内科、消化器外科

シェフと管理栄養士がコラボからだに優しいメタボレスメニュー

人のからだには、血管という命の管が全身を張りめぐっています。多くの病気の原因の一つに、全身に酸化物がたまり、血管が障害されることがあげられ、「メタボリック」もその一つと考えられます。

抗酸化ビタミンや食物繊維により体の酸化を防ぎ、若々しい日々が過ごせたらどんなに楽しいことでしょう。

1食あたりのカロリー、塩分、からだを酸化させる食品が通常より少なく、食物繊維・ビタミン・ミネラルが豊富な食事は、「メタボレス」の代名詞と言えます。

阪大病院では、阪大病院栄養管理室の管理栄養士とスカイレストランシェフとのコラボメニューを実現。「からだにやさしいお食事」を楽しんでいただける「メタボレスメニュー」を提案させていただきました。1日30食限定。1360円（税込み）。



第3回がんフォーラム 質問も活発に

阪大病院「がん診療」市民公開フォーラムが12月1日に医学部講義棟で開かれました。

今回で3回目の開催となり、前半は我が国に多いがんの最新治療として前立腺がんと大腸がんを取り上げました。後半はこれまでのフォーラムでも質問が多かった免疫療法について、消化器がんの免疫療法の最近の進歩に関する講演がありました。

それぞれのがんの発生の仕組みから最新の診断、治療方法、また、免疫療法についても、本院で最前線の治療に当たっている専門医からわかりやすく説明がありました。

今回も多数の参加者があり、質問コーナーも盛況で、終了後も講師を取り囲んでの質問が相次ぎました。

今後も引き続きフォーラムの開催を計画していく予定です。

クリスマスコンサート 憩いのひと時

恒例のクリスマスコンサートが12月21日にエントランスホールで行われました。第1部は未来医療センター有志によるハンドベルで、すがすがしいベルの音に心を洗われました。第2部は阪大アカペラサークルの学生による美しい歌声にうっとりしたり、手拍子でリズムを取ったりしていました。

最後に「聖この夜」をみんなで合唱。楽しみが少ない病院生活の中で、患者さまに憩いのひと時を過ごしていただきました。



患者さま用の図書コーナー好評

外来棟3階にある患者図書コーナーは、ボランティアの方々の運営によって、平日の毎日午後1時から3時まで開室しています。本はすべて患者さまや医師、看護師や事務職員有志から寄贈されたもので、ジャンルも医学専門書、小説、美術写真集、洋書など多岐にわたり、蔵書も3000冊に及んでいます。

患者さまから「図書コーナーができて良かった」との声が聞かれ、点滴をされている方や車椅子の方もお見えになり、皆さまに喜ばれています。

1日の来室は25~35人で、貸し出し冊数は40~50冊です。今後も、更なる充実を図っていかうと思っておりますので、家に眠っている本の寄贈をよろしくお願いたします。

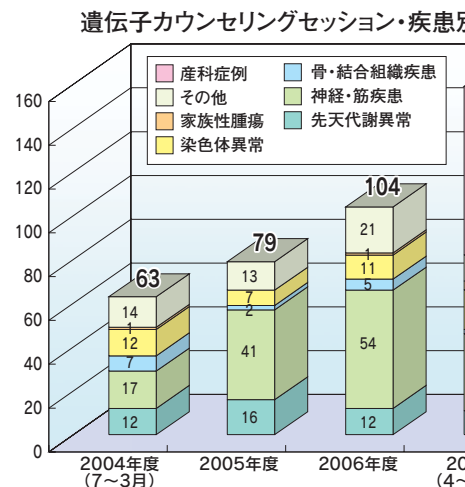
ホスピタル ミニニュース

発足4年目 相談が年々増加

遺伝子診療部

遺伝子診療部は、遺伝子検査も受け、遺伝子検査も行う遺伝子診療部の発足から4年目になりました。遺伝子の相談件数は年々、増えています。遺伝子の研究が進み、遺伝子の原因遺伝子が次々と解明されてきており、遺伝子診療部の役割がクローズアップされてきています。

遺伝子診療部は、がん病巣が小さく、数も少ないときには、ラジオ波でがん病巣を焼き切ってしまう治療法が主流になっています。がん病巣にラジオ波を発する針を差し込むだけで、病棟で簡単にできる手術で、患者さまの体への負担も少ない治療法です。年間に約100例行っています。進行した肝臓がんは消化器内科、消化器外科



こともありますが、多くの病気の原因遺伝子がわかり、遺伝子診断ができるようになったことが背景にあります。病気がハンチントン病や筋ジストロフィーのようにたつた一つの遺伝子異常によって発症する病気や、複数の遺伝子が関係する病気などさまざまです。出生前診断は胎児が子宮内で浮かんできている羊水にある細胞の遺伝子を検査して、胎児に遺伝病があるかないかを診ます。高齢妊娠が増え、ダウン症児が生まれるリスクが高いた

が、画像診断装置の進歩によって、がんになる前の状態がわかるようになってきました。抗がん剤の開発も進んでいますので、これからの治療に期待がもてます。早期の胃がんや大腸がん、食道がんは内視鏡で病変を切除することができます。また、食道がんには、食道がんによる出血には、最近、注目されています。小腸内

る治療が有効で、放射線科と連携して治療を行うこともよくあります。原因不明の腸管からの出血には、最近、注目されています。小腸内

視鏡による検査も行えるようになってきました。また、この検査を行える医療機関は少なく、他の医療機関から紹介されてくる患者さまも増えています。程度得られるのかなどもお聞きします。それらのアドバイスをもとに、産むか、産まないかを本人と家族が判断されることとなります。乳がんや大腸がんなどになりやすい家族性腫瘍の遺伝子もわかっていますので、相談や検査に來られます。検査で遺伝子があることがわかれば、定期的にがんの検査を受けて、早期に発見、治療をするようにアドバイスします。単一の遺伝子で必ず発症するハンチントン病や筋ジストロフィーなどの相談もありま

空飛ぶ救急室

ドクターヘリ配備

病人や負傷者の搬送に時間がかかる遠隔地や災害現場などへ医師と看護師を派遣するドクターヘリ写真が阪大病院に配備されま

するのではなく、病気に付いてくわしく説明し、その方の性格、家庭事情、社会的な状況などを踏まえ、数回、話し合うことになりました。そして、検査するかどうかは本人に判断していただきます。検査の希望が強くても検査をしないかどうか

した。府内なら20分以内には現場到着でき、これまで救命できなかった重症の病人や負傷者を救うことができる。大阪府の事業で、高度救命救急センターのある阪大病院が常駐するの最適な病院として選ばれました。府内の消防本部からの要請に従って、医師、看護師各1人が乗ります。現場へ行きます。救急現場やヘリコプター1内で救急治療を行いながら、収容先の病院へ運ぶこととなります。ドクターヘリは、年間300~350件の出動が予想されています。

は、部内のカンファレンスを行います。検査をすることになってからも、検査後、うまく結果を受け入れることができているかどうかもフォローします。予約制で火、木、金午後。自費診療で初診は5355円、再診3465円。



また、ドクターヘリは、阪大病院を始めとした高次医療機関への重症患者の病院間搬送や自然災害や事故などの災害現場に災害医療支援チームを派遣するといった活動でも大いに期待されています。ドクターヘリは、年間300~350件の出動が予想されています。

に配備され、毎日、高度救命救急センターの医師1人と看護師1人が交代で待機。ヘリコプターのパイロット、整備士と運行管理者も常駐します。運行時間は午前8時半から日没までです。